



KEIAIフェスタ

10月28日(土)29日(日)にKEIAIフェスタ★2023が行われます。

今年度もクラス毎の企画を中心に行われるそうです。佐倉キャンパスでの最後のフェスタになりますので、多くの卒業生・地域の皆様にご来場いただけるよう、学生の皆さんは夏の猛暑に負けず準備をしてきました。

今年は、打ち上げ花火が復活いたします。校友会も心に残るフェスタになるようなストラックアウトを行い、学生の皆さんを支援します。



Home Coming Day 佐倉キャンパスで思い出作りを

2024年千葉敬愛短期大学は、敬愛大学のある稻毛キャンパスに移転します。校名も「敬愛短期大学」に変更されます。

千葉敬愛短期大学では、今年度限りですが佐倉キャンパスを利用しての同窓会実施に協力をしてくれています。校友会では、佐倉キャンパスを利用しての同窓会や卒業生と短大の共同研究会を「Home Coming Day」事業として支援をしています。同窓会については、お1人1000円の支援をいたします。

「あの頃」に戻って、きらめいていた自分を探しに千葉敬愛短期大学に足を向けてみませんか。

詳しくは校友会ホームページをご確認ください。

https://www.chibakeiai.ac.jp/kouyukai/news/20230717_25077/

問い合わせ先 yoshihisaotsuka@outlook.jp(事務局長 大塚)

敬短の輪作り 一同窓会の費用支援一

校友会では、同窓会実施ためお1人1,000円の支援をしています。5人以上の集まりで3分の2の方が校友会会員であれば支援をさせていただきます。申請の流れや方法は校友会ホームページの下記アドレスにアクセスしてご確認ください。卒業してもつながれる敬短の輪作りにご活用ください。

https://www.chibakeiai.ac.jp/kouyukai/news/20230614_24900/

編集後記

校友会報31号の表紙は、正門から玄関に続く桜並木の写真にいました。開花が早ければ卒業生を送り、遅ければ新入生を迎えた桜。登校する学生を迎える、下校する学生を送り、無事に一日が過ぎた喜びを1年間ため込んで、春に爆発するように咲く桜。そこに、敬短の先生方・職員の皆さんの姿を見るようです。

2024年春。佐倉キャンパスの桜は、最後の卒業生を見

送った後、役目を終えて静かに散っていきます。ただひたすらに、学生の未来を見つめながら咲き続けた桜の勇姿を会員の皆様と共有したいと思い表紙を作成いたしました。

校友会では、友だち作りのために下記QRコードで校友会の友達登録をお願いしています。LINEでは同窓会支援や研究会のご案内などをしています。是非、敬短卒業生約4,700名の輪づくりにご協力をお願いします。

(千葉敬愛短期大学校友会事務局長 大塚孔久)

校友会LINE登録のお願い

校友会では、郵送ではお送りしきれない情報をホームページで発信しています。情報を更新する度にLINEでお知らせしています。まだ、登録されていない方はこのQRコードにてご登録ください。



お便りお待ちしております!!

事務局では会員の皆さんのご感想・お便りをお待ちしています。

◎郵送先

〒285-8567 千葉県佐倉市山王197千葉敬愛短期大学校友会事務局
E-Mail yoshihisaotsuka@outlook.jp (事務局長 大塚)
H P <https://s-chibakeiai.com/kouyukai/>

◆お知らせ 会員の皆様へ会報を送付しておりますが都合で返送されてくる方がおります。都合により送付不要の方は校友会事務局迄ご連絡下さい。

千葉敬愛短期大学 校友会報

CHIBA KEIAI JUNIOR COLLEGE ALUMNI ASSOCIATION

Vol.31

発行日/令和5年10月1日
編集・発行/千葉敬愛短期大学校友会
発行責任者/片山喜久子
〒285-8567 佐倉市山王1-9 TEL.043-486-7111

contents

ご挨拶 2

千葉敬愛短期大学校友会 会長 片 山 喜久子
千葉敬愛短期大学 学長 中 山 幸夫

佐倉キャンパスで過ごして 3

千葉敬愛短期大学校友会 副会長 野 島 沙織
千葉敬愛短期大学校友会 幹事 塩 田 そのみ

会員交流ページ
思い出の佐倉キャンパス 4-7

短大から 8

学生部長・教授 大 野 雄 子
学生会長 多 和 寛 将
KEIAIフェスタ実行委員長 小 林 花

校友会事務局から 10

編集後記 大 塚 孔 久



ご挨拶



地域に愛された山王キャンパス

千葉敬愛短期大学校友会 会長 片山 喜久子

令和5年度は千葉敬愛短期大学が佐倉市山王での最後の学びとなる年です。振り返れば、昭和62年に初等教育科が山王に移転してから36年。校友会創設は平成3年です。当時私は山王の住民でしたし地域にとっても、敬愛短大の存在は誇りに思っていました。毎年行われる敬愛フェスタに多くの住民が足を運びました。校友会のお店ではサンマが売られ、後夜祭には花火が打ちあげされました。思い出すだけで胸がいっぱいになります。今年の敬愛フェスタは熱い思いで参加し、校友会の絆を深めてい



きましょう。そして佐倉山王の広々とした美しいキャンパスの姿を今一度皆さんとこの目に焼き付けたいと思っています。多くの校友会の皆さん、今年度中に一度でも来てくださいますように!



佐倉山王から稻毛キャンパスへ

千葉敬愛短期大学 学長 中山 幸夫

新年度より、明石前学長の後任として学長に就任しました。校友会の皆様には、日頃より母校の教育活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

ご承知のように、学園創立100周年事業の一環として稻毛キャンパスの整備計画が進行中です。大学短大の新校舎(地上9階、地下1階)建設については計画通りに工事が進展し、来年2024(令和6)年2月には新館が竣工となります。これに伴い、本学は来年度から稻毛キャンパスに移転し、校名も「敬愛短期大学」に変更となります。

す。1987(昭和62)年以来、37年ぶりに稻毛の地に戻ることになりますが、リニューアルとなる稻毛キャンパスの教育環境を生かしながら、社会の発展を支える優秀な保育人材の養成に取り組みたく思います。

新キャンパスの所在する稻毛の街は、千葉市内でも有数の文教地区として知られています。交通至便な立地であることも含めて、稻毛キャンパスへの移転は本学の学生たちにとって有意義な大学生活を後押ししてくれるものと期待しています。



佐倉キャンパスの思い出

千葉敬愛短期大学校友会 副会長
野島 沙織

私が敬短に入学を決めた理由は、オープンキャンパスで見たビデオでした。そのビデオでは、合唱祭や敬愛フェスタといった行事を楽しむ先輩方の姿がありました。楽しそうなキャンパスライフを見て敬



かけがえのない学生達との日々

前職員 千葉敬愛短期大学校友会 幹事
塩田 そのみ

千葉敬愛学園に入職し39年、そのうち21年を短大学生係として過ごしました。たくさんの学生に出会えたことは私にとって大切な宝物です。短大生は授業や実習だけでも精一杯の日々ですが、フェスタ等の行事にも積極的に関わります。「行事を通して様々な経験をし、問題解決しながらやり遂げること。」を基本方針に各行事に挑んでいきます。少ない準備時間の中、難題に直面し悩みながらも仲間と協力し解決策を見出していく。最後まであきらめず、やり遂げた時の自信に満ちた表情は格



短に進学したいと思いました。そして、私は2年生の時に敬愛フェスタの実行委員長をしました。中でも思い出に残っているのはフェスタの最終日に見た花火です。時間としては本当に10分程?と短いですが、山王に住んでいる方も楽しみにして下さっていました。また、スタッフみんなで作り上げたフェスタの最後に見た花火はとても感動しました。そんな花火も今年は4年ぶりに復活するそうです。佐倉キャンパスで見る最後の花火を見届けたいなと思います。

別です。その姿を見る度に私は共に過ごした時間を尊く感じました。

これからも短大で築いた人との絆や前に進む力を信じ、様々な場所で輝いてくださいね。皆さんの未来を応援しています。



2023年度で佐倉キャンパスは歴史を閉じます。佐倉キャンパスで過ごされた皆さんに思い出を綴っていただきました。

思い出の 佐倉キャンパス



自然とともに 過ごした日々

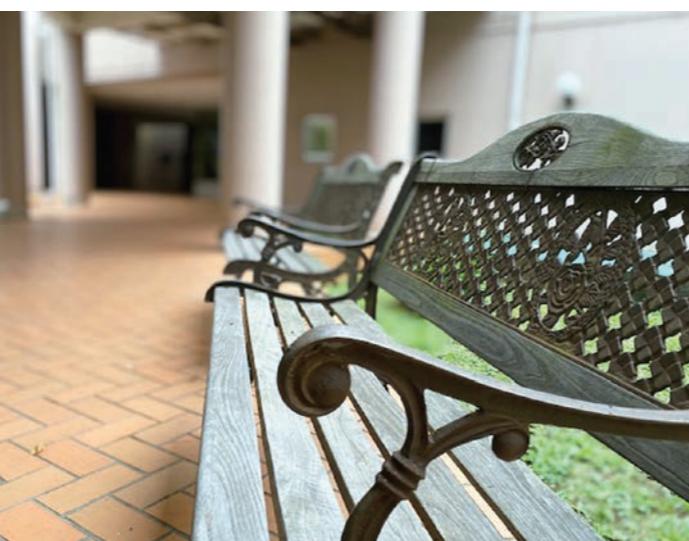
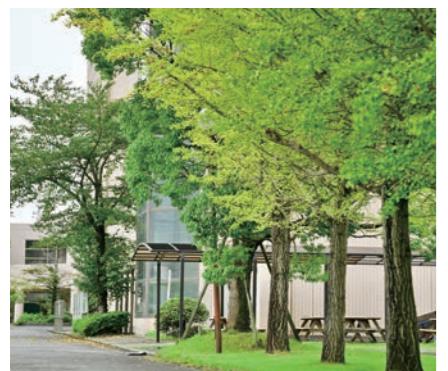
猿田 菜月さん(2022年卒業)

佐倉キャンパスでの思い出には全て、四季折々の景色があります。

一番印象深い出来事は、敬愛フェスタで附属幼稚園の園児を招待したことです。

畑で栽培したさつまいもを子どもたちが嬉しそうに掘っていた様子は忘れられません。

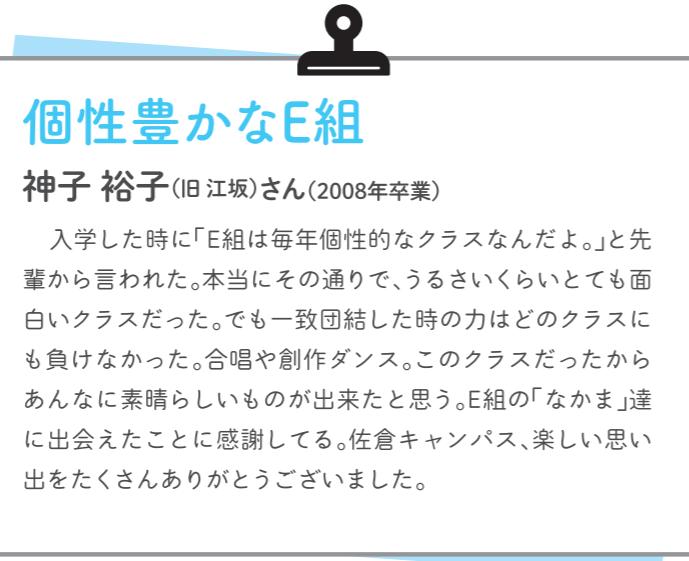
自然と深く関わるところがとても好きでした。



個性豊かなE組

神子 裕子(旧江坂)さん(2008年卒業)

入学した時に「E組は毎年個性的なクラスなんだよ。」と先輩から言われた。本当にその通りで、うるさいくらいとも面白いクラスだった。でも一致団結した時の力はどのクラスにも負けなかった。合唱や創作ダンス。このクラスだったからみんなに素晴らしいものが出来たと思う。E組の「なかま」達に出会えたことに感謝している。佐倉キャンパス、楽しい思い出をたくさんありがとうございました。



佐倉キャンパス



憩いのキャンパス

敏森 唯さん(2008年卒業)

当時の私の高校卒業後の進路は、実は千葉敬愛短期大学以外のところを考えていました。

ですが、ふと訪れた佐倉キャンパスでの学校説明会で正門をくぐってからの並木通りの光景に、一瞬にして「この学校に通いたい!」と思いました。あの時の私の感覚は間違っていたかった。

今でもそう思えるのは佐倉キャンパスならではの自然体で温かい雰囲気があったからだと思います。

佐倉キャンパスが大好きです♡

これまでありがとうございました。稻毛キャンパスに移動しても千葉敬愛短期大学ならではの様々な出会いと想い出が紡がれますように

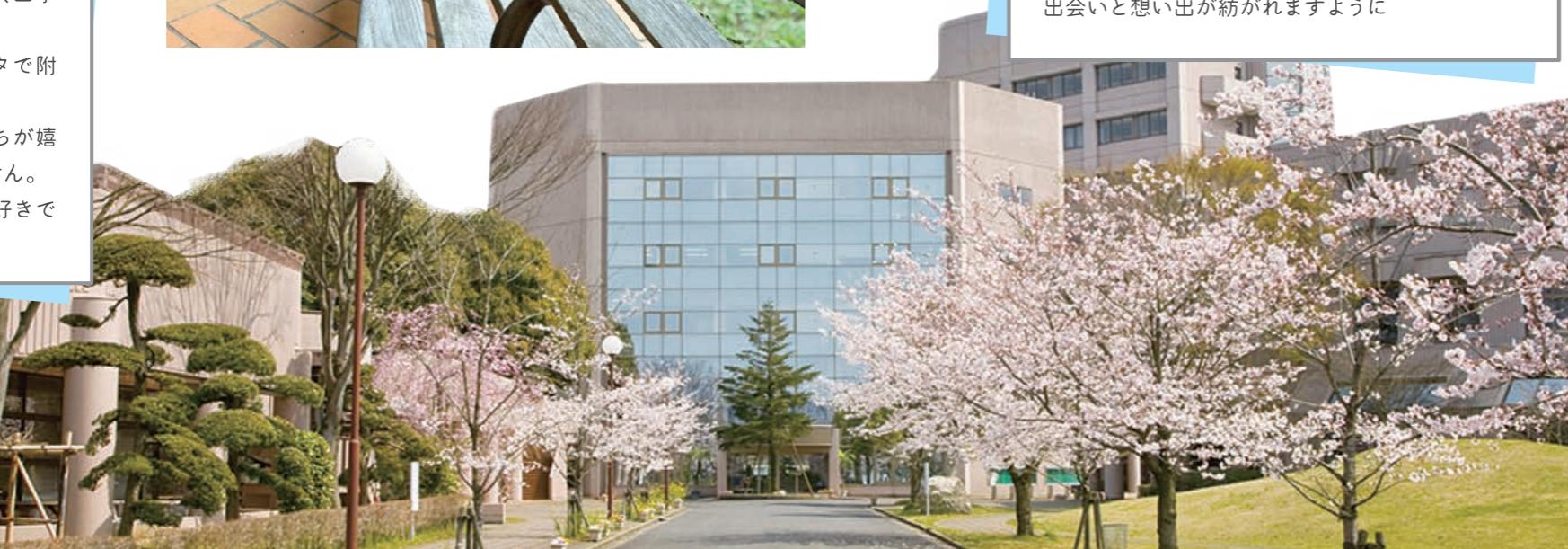


佐倉キャンパスが 繋いでくれた優しさ

吉澤 優季(旧渡辺)さん(2009年卒)

難しい授業も楽しく進めてくれる先生方。いつも声をかけてくれる食堂のマスター。何かある度に相談にのってくれた事務室。家族より長い時間過ごしたクラス。笑い合った学生会館。お疲れ様と見送ってくれる警備さん。たくさんの何気ない毎日と、たくさんの思い出が詰まった佐倉キャンパス。離れてしまっても、ここで出会った縁をこれからもずっと大切にしています。

ありがとうございました。



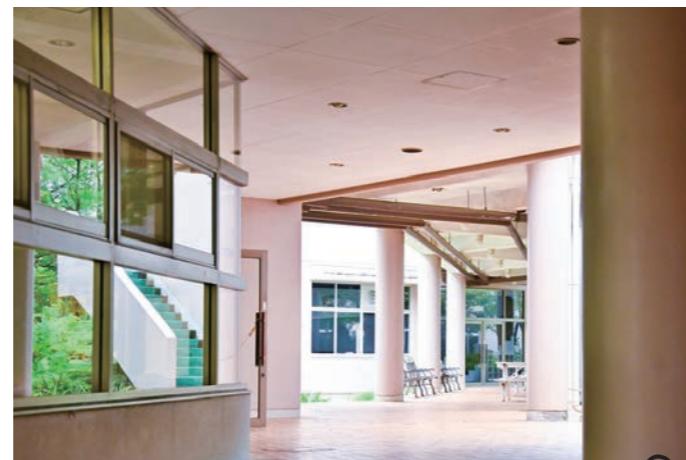
思い出の佐倉キャンパス



さくらキャンパスの思い出

高橋 茉さん(2022年卒業)

私の佐倉キャンパスの思い出は、やはり敬愛フェスタを行ったことです。半年以上前から、敬愛生、一般の方たくさんの人人が楽しんでいただけるよう内容を考えて、先生方や校友会の方と話し合うことをしました。大変なこともありましたが、先輩方のフェスタの足跡を辿りながら、形にしていくことにとってやりがいを感じ、最高の思い出となりました。



佐倉キャンパスの思い出

黒田 江里佳さん(2016年卒業)

佐倉キャンパスでの思い出と言えば2つの光景が目に浮かびます。1つ目は共に学び、楽しみ、絆を深めたクラスでの時間。

2つ目は敬愛フェスタです。特に敬愛フェスタでは実行委員を務め、計画運営等力を合わせて準備をし、当日を楽しく進められたことは仕事にも活きていると思います。



佐倉キャンパスの思い出

森田 優里さん(2021年卒業)

コロナウイルスにより学内のイベントがほぼ中止になってしまった2年間でしたが、それでも同好会があったおかげで、学生生活がとても楽しかったです。ビブリオバトル同好会では、仲間や先生方とどのように活動するか話し合ったり、本をお勧めしあったりもそして、人との繋がりも新しい本との出会いもあった楽しい時間でした。



佐倉キャンパスの思い出

片岡 みさきさん(2016年卒業)

私の佐倉キャンパスの思い出は、大切な仲間に出会えたことです。10人の友人と一年生の頃から、共に勉強し、協力して試験に臨んでいました。実習でも、大変なことがあっても、みんなが頑張っていると思えば頑張っていました。個性豊かな友だちで、みんながマイペースで、自由に過ごしながらも休み時間やお昼の時に、自然とみんなが集まり、色々な話をしたり、たわいもないことで笑い合ったりして、とても楽しかったです。卒業した今でも、連絡を取り合って集まると言葉が止まりません。そんな、かけがえのない友人たちと出会えたことが大切な思い出で宝物です。



千葉敬愛短期大学からのお知らせ

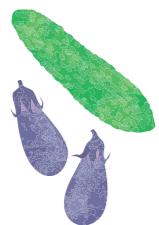
ありがとう、佐倉キャンパス



学生部長・教授
大野 雄子

今年度は稻毛でオープンキャンパスを行うなど、移転に向けて慌ただしく動き始めている。佐倉での生活は残り僅か、この場ならではの畑で茄子やゴーヤの収穫の恩恵に預かった。佐倉キャンパスは、自然豊かで季節により花が咲き、木々が紅葉し、鳥がさえずり、光や空気が音楽を奏でるように耀う。日々環境と対話ができる場であった。

近年は、これらの対話を日記に書くように歌にすることができる大きな喜びだった。佐倉キャンパスに感謝の想いを込めた曲



「ありがとう～また逢う日まで～」を学生たちが敬愛フェスタの合唱祭で歌ってくれるという。学生たちは、コロナ以前の内容を超える勢いで準備を進めている。最後のフェスタを感謝の気持ちで学生、卒業生のみなさんと迎えられることができ楽しみである。



「変わらない思い」

学生会長
多和 寛将 (2年)

私は自分でも誰でも気持ちさえあればみんなを引っ張って行ける姿を見せたくて学生会に入りました。現在は、フェスタや体育祭を中心に学校を盛り上げつつ、他にも今年からコロナ禍で活動ができなかった部活動などを学生たちができるようにしています。私は先輩から後輩に受け継がれる思いがとても学校を盛り上げるのにいいと思っていて、今年は佐倉キャンパス最後でもあるのでここでまた活動を再開できたのはとても嬉しいことだと思います。先輩から後輩へ学校が変わっても変わらない思いを、後輩に多くのことを残せるようこれからも全力で取り組みたいと思います。

KEIAI☆フェスタ2023実行委員長
小林 花 (2年)

KEIAI☆フェスタ2023実行委員長の小林花です。今年のテーマは、「暁」～この手で甦らせる希望のひかり～です。「暁」という字には待ち望んでいる事が実現されるという意味があります。フェスタが無事開催され、成功しますようにという願いを込めました。他にも明るくなり始める頃、太陽が高く昇るという意味もあります。ここには来年度からの稻毛キャンパスでも輝けますようにという想いを込めました。コロナ禍になってから思うように運営する事が出来なくなってしまったこのKEIAI☆フェスタですが、佐倉キャンパス最後となる今年度は今までのようなフェスタを甦らせたいという強い思いがありました。そこで飲食販売や花火の打ち上げなどの復活を目指しフェスタ委員全員で話し合いを重ねています。卒業生の皆さんや地域の方々、教職員の皆さんに感謝の気持ちを届けられるような素敵なフェスタになるよう準備して参ります。

「稻毛でも輝けますように」

KEIAI☆フェスタ2023実行委員長
小林 花 (2年)

KEIAI☆フェスタ2023実行委員長の小林花です。今年のテーマは、「暁」～この手で甦らせる希望のひかり～です。「暁」という字には待ち望んでいる事が実現されるという意味があります。フェスタが無事開催され、成功しますようにという願いを込めました。他にも明るくなり始める頃、太陽が高く昇るという意味もあります。ここには来年度からの稻毛キャンパスでも輝けますようにという想いを込めました。コロナ禍になってから思うように運営する事が出来なくなってしまったこのKEIAI☆フェスタですが、佐倉キャンパス最後となる今年度は今までのようなフェスタを蘇らせたいという強い思いがありました。そこで飲食販売や花火の打ち上げなどの復活を目指しフェスタ委員全員で話し合いを重ねています。卒業生の皆さんや地域の方々、教職員の皆さんに感謝の気持ちを届けられるような素敵なフェスタになるよう準備して参ります。

卒業生の皆様へ

2023年10月吉日
千葉敬愛短期大学
学長 中山 幸夫

千葉敬愛学園 創立100周年

千葉敬愛短期大学を設置する学校法人千葉敬愛学園は、2026年の学園創立100周年を記念し、総合学園として魅力ある教育環境の整備を進めております。

本学は、この度の学園創立100周年を契機として、教育・研究力向上のための経営基盤の安定化を図るため、2024年度より系列の敬愛大学のある稻毛キャンパス(千葉市稻毛区)に拠点を移すこととなりました。

現在、稻毛キャンパスでは、記念事業として大学・短大新校舎建設(2024年2月竣工)等を進めており、“文教のまち”稻毛で大学生・短大生が共に学びあうことで、教育の質向上とキャンパスのブランド化を図って参ります。

併せて、この度の移転に伴い、敬愛大学との統一性を図る観点から校名を“敬愛短期大学”に変更いたします。キャンパス移転及び校名変更後につきましても地域の保育への“使命感”と“奉仕の精神”をもった人材を育成するという教育理念の実現に向け、より一層邁進して参ります。



大学・短大新校舎
建築面積 1,137.71m²
延床面積 約10,440m²
建築規模 地上9階建
(地下1階・鉄筋造)

【お知らせ】

移転後の千葉敬愛短期大学(2024年4月より敬愛短期大学)の連絡先は別途、大学HP等で再度、ご案内いたします。